



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

年間第5主日 C年 (2022年2月6日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書 6章1—2a、3—8節

第二朗読：コリントの信徒への手紙一 15章3—8、11節

福音朗読：ルカによる福音書 5章1—11節

わたしがここにおります

三つの朗読から

第一朗読の「わたしがここにおります」(6章8節)は味わい深いことばです。「御座に主が座しておられるのを見た」(1節)イザヤは「わたしは汚れた唇の者」(5節)と自分の汚れ、罪を告白します。しかし、神はセラフィムを遣わして、祭壇からの火でイザヤを清め、罪をゆるします。「誰を遣わすべきか」(8節)と問いかける神さまに向かって、ゆるされた体験をしたイザヤは「わたしを遣わしてください」(同)と願い出るので、神のいつくしみに触れた人は、生き方が変化します。しかし、罪の自覚がない人は神のいつくしみに触れるチャンスを失うので



イザヤの証言に基づくセラフィム
ソフィア大聖堂 トルコ・イスタンブール

第二朗読にある「わたしも受けたものです」(15章3節)は記憶に留めたい一節です。パウロは伝えられたもの、受けとったものを伝えます。受けとったものとは主イエス・キリストとの出会いの体験であり、キリストが今もなお生きておられるという信仰です。受けとったものを果たしてわたしたちは伝えているのでしょうか。

福音朗読のペトロのことは、「お言葉ですから」(5節)は印象的です。ペトロは自分の体験や知識、知恵に頼らずに、イエスさまのことに従って網を降ろしました。「お言葉ですから」(5節)とペトロの考えを変えさせたものはいったい何だったのでしょうか。「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」(4節)と語りかけるイエスさまの言葉の力強さであり、ペトロと向き合って語りかけるイエスさまの瞳の中にあるまなざしの強さだったのでしょうか。

第一朗読と同様に、ペトロもまた罪深さを自覚します。イエスさまへのことばへの疑いがあったのでしょうか。あるいは自分は漁師だというプライドがあったのでしょうか。しかし、ペトロはゆるされ、新たな生き方の使命が与えられるのです。

説教

「わたしがここにおります」(イザ6章8節 ラテン語では Ecce ego、イタリア語では Eccomi)。これは、司祭叙階式で受階者が呼び出されたときの返答のことばです。日本語の典礼文では「はい」となっています。少し物足りない答えです。

「わたしが、ここにいます」は、司祭職を生きるものにとって神からの呼びかけに対する積極的な答えとなります。神は罪人を選んで使命を与えるのです。イザヤ、パウロ、ペトロと今日の朗読にあるように。そして、神からの使命を生きる者を支えるのは、神からのことばです。「すべてを捨てて」(ルカ5章11節)は、生業のための道具を捨てて、自分の利益のためではなく、神のことばへの信頼のうちに生き始める、その第一歩を指すことばです。



ゲネサレト湖 (ガリラヤ湖)